

2020年度 第3四半期 決算概要

2021年2月4日

沖電気工業株式会社

ご説明のポイント

■ 3Q累計業績の総括

- ✓ 前年度の一過性要因（売上基準、大型案件等）による減収影響。
- ✓ 期初計画に対して、概ね想定した範囲で着地。

■ 業績へのコロナ影響

- ✓ 海外は期初想定した以上の影響があり、長期化。
- ✓ 国内は一部顧客への影響が拡大、投資計画の見直しなど顕在化。

■ 構造改革

- ✓ 中期経営計画のシナリオに沿って、着実に施策を推進中。
- ✓ 構造改革効果の当年度寄与も一定程度見込む。

2020年度 第3四半期 決算の概要

- 前年度の固有要因の反動やコロナ影響の継続により、前年比減収減益。

(単位：億円)	20年度 実績	19年度 実績	前年比
売上高	2,669	3,279	△610
営業損益	△26	91	△117
経常損益	△34	73	△107
(親会社株主に帰属する) 四半期純損益	△85	72	△157
USD平均レート (円)	106.12	108.67	2.55円高
EUR平均レート (円)	122.37	121.05	1.32円安

2020年度 第3四半期 セグメント情報 (売上高)

- ソリューションシステム
3Q累計は大型案件の反動減や売上基準変更などの影響はあるものの、2Qに引き続き3Qも直前四半期比増収となり、順調に推移。
- コンポーネント&プラットフォーム
海外市場を中心にコロナ影響が継続し、前年比大幅減。

(単位：億円)	20年度 実績	19年度 実績	前年比
ソリューション システム	1,286	1,573	△287
コンポーネント& プラットフォーム	1,352	1,610	△258
その他	31	95	△64
合計	2,669	3,279	△610

※19年度実績はリステートしています。

2020年度 第3四半期 セグメント情報（営業利益）

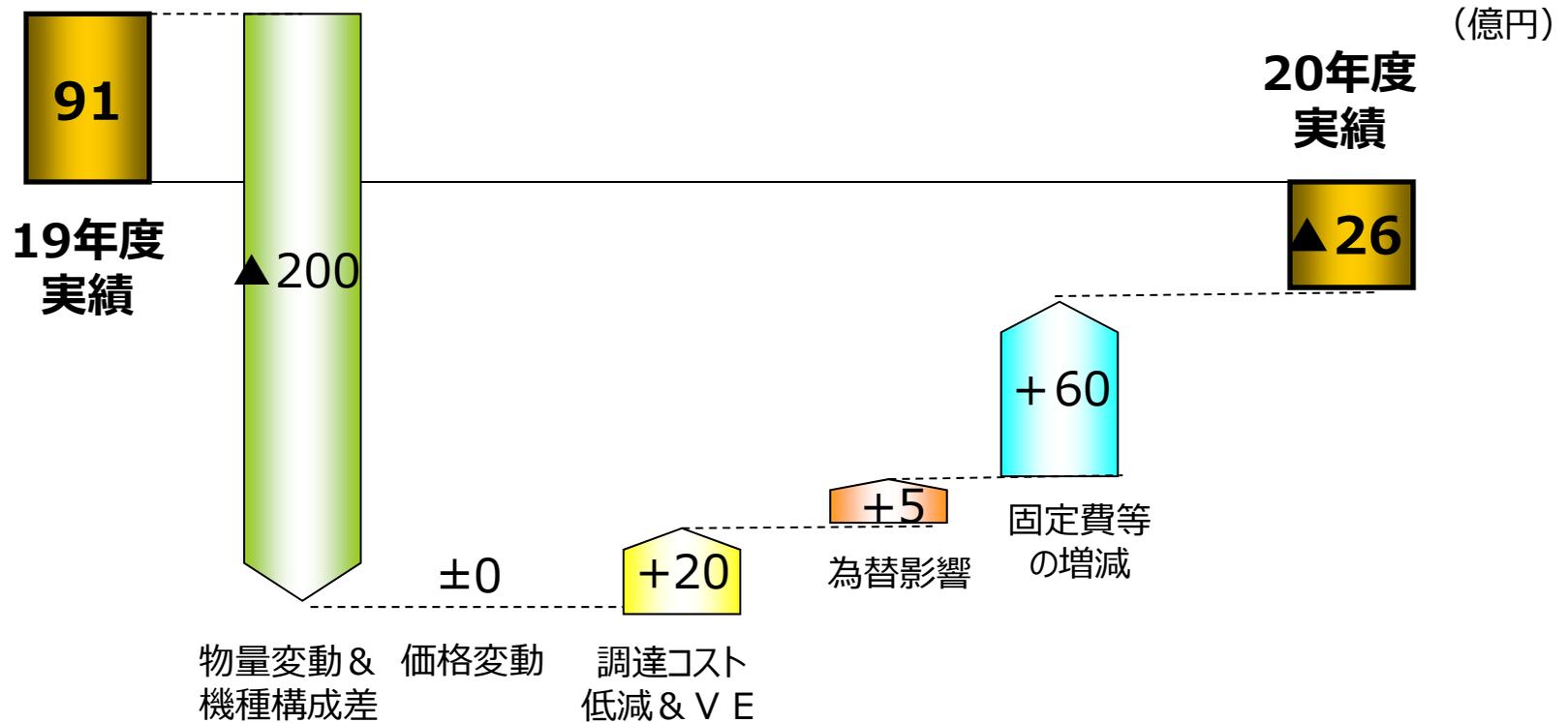
- ソリューションシステム
3Q累計は前年比の売上反動減が影響するも、四半期毎の営業利益は改善が続く。
- コンポーネント&プラットフォーム
費用削減や為替の効果、欧州における消耗品販売の一時的な増加（2Qまでの反動）などにより、四半期毎の損失が縮小するも、3Q累計では減収に伴い減益。

(単位：億円)	20年度 実績	19年度 実績	前年比
ソリューション システム	65	107	△42
コンポーネント& プラットフォーム	△42	39	△81
その他	△3	△2	△1
消去・本社費	△46	△54	+8
合計	△26	91	△117

※19年度実績はリステートしています。

2020年度 第3四半期 営業利益の変動要因

- 物量変動の影響が大、費用等全般の見直しで一部をリカバー。



2020年度 第3四半期 B/Sの概要

- 資産・負債の構成に大きな変化無し、総資産は圧縮。
- 自己資本比率は0.5ポイント減少。

(単位：億円)	20年12月	20年3月	前年度末比
流動資産	2,044	2,367	△323
固定資産	1,375	1,357	18
資産の部	3,419	3,725	△306
流動負債	1,508	1,599	△91
固定負債	949	1,061	△112
負債の部	2,458	2,660	△202
自己資本	959	1,062	△103
その他	2	2	0
純資産	961	1,064	△103
負債及び純資産合計	3,419	3,725	△306
自己資本比率(%)	28.0	28.5	△0.5
DELシオ(倍)	0.8	0.7	+0.1

2020年度 第3四半期 キャッシュフローの概要

- 前年度の資産売却を除いてほぼ前年並み。
- 手元資金は若干の余裕がある水準。

(単位：億円)	20年度 実績	19年度 実績	前年比
I 営業キャッシュフロー	110	116	△6
II 投資キャッシュフロー	△111	10	△121
フリー・キャッシュフロー(I + II)	△1	126	△127
III 財務キャッシュフロー	△71	△58	△13
現金および現金同等物の残高	392	337	+55
固定資産取得額	198	85	+113
減価償却費	93	92	+1

中期経営計画の進捗状況

<施策の進捗> (2021年2月4日時点)

- 海外販売戦略を見直し、販売機種、拠点および人員を再編
 - ▶ プリンターは特定用途用を主体に販売機種の絞り込みを完了。
 - ▶ 20年度内に北米での本体販売停止。欧州販売拠点の再編を開始。
 - ▶ 拠点人員については6割削減を目途とし、中期経営計画に従って実行中。
- 生産拠点再編
 - ▶ 中国でのATM生産、販売を終息（深セン工場を終息しベトナム工場へ生産移管）
- リソースシフトによる開発力強化
 - ▶ 20年4月 OKIデータ50名を開発本部（DMS）へ異動し技術融合を開始（プリンターから情報機器へ）
 - ▶ 21年4月 OKIデータを統合。プリンター技術者を融合し、開発本部700人体制を構築
- グループ全体の生産統括機能強化（バーチャルOne Factory、スマート工場化推進）
 - ▶ 21年4月生産統括本部、モノづくり基盤推進部を新設
 - ▶ 21年度内に本庄地区に新工場を新設
- グループ共通コスト改革
 - ▶ テレワークを主体として、オフィススペース半減を目標に芝浦、虎ノ門地区のオフィスを再編、集約。

補足資料：四半期実績推移

(単位：億円)	19年度				20年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
ソリューション システム	売上高 528	508	537	717	400	435	451
	営業利益 24	32	51	95	17	22	25
コンポーネント& プラットフォーム	売上高 516	568	526	553	400	478	474
	営業利益 3	28	9	13	△17	△19	△5
その他	売上高 32	31	32	24	14	9	8
	営業利益 △1	0	0	△4	0	△1	△2
消去・本社費	営業利益 △15	△18	△20	△27	△12	△16	△18
合計	売上高 1,076	1,108	1,095	1,294	814	922	933
	営業利益 11	41	39	77	△11	△14	0

※19年度実績はリスタートしています。

ご注意

※本資料における業績予想および事業計画等は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって実際の業績は様々な要因により、これらと異なる可能性があることをご承知おきください。

※億円単位の数値の表示方法について：
各項目の数値は、それぞれの数値の億円未満を四捨五入して表示しています。
また増減については、億円単位の数値を元に計算しています。



Open up your dreams